

レフェリーレポート

H27.11 大分県ハンドボール協会 内海秀昭

国内外の17歳以下のチームが参加する下記大会に審判員として参加しました。担当した試合などで気づいた事や反省点など報告します。

○大会名称

サニックスカップU-17国際ハンドボール交流大会

大会要項等は下記より参照できます。

<http://sanix-sports.info/handball/>

○大会日程 2015/10/16-18

10/16(金)、10/18(日)に各1試合を、
大分県 堀川審判員と共に担当しました。



○課題、反省点、確認事項等

ペアとのアイコンタクト

ペアレフェリーとはアイコンタクトをとるよう意識していますが、GR(ゴールレフェリー)の時にボールを追っていることが多いことが指摘されました。GRの基本としてはゴールエリア際の攻防を主眼にする意識して修正する必要があります。

アドバンテージの適用

ターンオーバー(オーバーステップ等)後のフリースローが、反則地点より離れた位置で実施されたため、ボールの行方を見て(スローするチームが有利となったため)、差し戻してフリースローを再度実施しました。これまでも意識してましたが、プレーを先読みしたことで余裕を持って適用できたので、今後の同様のプレーにつなげたいと思います。

レフェリーのポジショニング

試合毎の感想では「プレーが見えなかったのはレフェリーのポジショニングにも問題がある。もっと見える位置を探すべき」との意見もあります。今回は【キャッチミス直後のキックボール】が判定できない場面がありました。そういった判定ミスの積み重ねがチームの信頼を少しずつ失っていくことを特に実感した大会でもありました。位置取りの正解はまだ見つけられませんが、ポジショニングだけではなく、“見る”ためにどう移動または判断するのか、まだ研究する必要があります。

罰則の適切な適用

警告、2分間退場の適切な適用については、九州・全国の研修会でも話題になっていて、開始直後でも2分間退場またはそれ以上の罰則があることを意識しています。自分たちのレフェリングの基準をはっきり示すことが、例えば試合終盤での余計な反則を防ぐプレイヤーへの意識付けにとっても有効だと思います。

領域分担

レフェリーハンドブックでも概念が示されているように、私たちペアもゴールエリア付近以外ではより近いレフェリーが判定できるよう領域を分担しています。しかし、CR（コートレフェリー）をしていた私が、私から遠い位置の“見えた”プレーで笛を吹いてしまい、ペアとの差し違いによりゲームの流れを中断してしまったことは大きな反省点です。ペアの笛を待つ場面があることをもっと意識する必要があります。



ゴールエリア際の攻防

6mライン際の攻防の見極めは、一瞬の判断が要される場面が多くあります。ウイングプレイヤーのトラジションや、バックプレイヤーの進入から発展するピヴォットへのパスなどがよく見られますが、その際のDFの立ち位置によっては、エリア内での防御だったかどうか、それがシュートにどう影響したかを判断する必要があります。視野を広く持ち、プレーを先読みすることで判断材料を増やす必要があります。

プレイヤーの心情

試合終盤にラフプレーが多くなるゲームがありました。一方のチームから発生する場合もありますが、私たちのレフェリングによる不満などが発生要因にも関わっていると思います。公平なレフェリングは当然ですが、チームとのコミュニケーションの取り方など、「自分たちがレフェリーとしてできることはまだないか」にも着目する必要があります。

本大会に参加する機会をいただきましたので、この経験を若手レフェリーにもお伝えしたく、本レポートを通じて参考の一助にいただければと思います。

以上